



真岡市議会議員

お世話になります！

中村かずひこ通信



【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp vol.57



こうした取り組みがスタートしました！

『市長による定例記者会見』を毎月実施

平成22年12月・25年2月・27年9月・29年6月 各定例議会 一般質問にて提言

これまで真岡市では、市長による定例記者会見を、年4回のペースで行って来ました。
ただし、県内では14市のうち11市の市長が、記者会見を月1回(年12回)行っており、他市と比較して行政トップによる地域の情報発信のあり方が、これまで1つの課題となっていました。
そうした中、石坂真一市長は定例記者会見を月1回のペースで行うという方針を示しました。今後は、市の施策や新規事業の周知、公共施設の案内、イベントのPRなどについて、市長自ら毎月発信していくことになります。

6月定例議会報告 6/5▶6/20

6月定例議会が、6月5日(月)から20日(火)にわたって行われました。
今回、執行部から提出された議案は『BCP(事業継続計画)策定推進都市とすることについて』、『真岡市副市長の選任につき同意を求めることについて』など計24件で、いずれも原案通り可決されました。

石坂新市長との
初論戦！

質疑・一般質問



議員による質疑・一般質問は、12日(月)と13日(火)の2日間行われ、中村は12日の4人目として登壇。1件の質疑と4件の一般質問を行いました。
執行部は答弁の中で、『真岡市内での病児保育を実施するため、すでに行政内部で調査・研究を始めている』ことなどを明らかにしました。

(中面に関連記事)

中村が行った質疑・一般質問の内容

質疑

1.平成29年度真岡市一般会計補正予算(第1号)について
(1)BCP(事業継続計画)策定推進支援事業費について

一般質問

- 今後の市政運営について
 - 財政運営に対する考え方について
 - 市長が行う情報発信について
 - シティプロモーションのあり方について
- 雇用の創出について
 - 新産業団地の整備について
 - 起業家支援について
 - 『雇用のミスマッチ』について
- 子育て環境の整備について
 - 病児・病後児保育について
- 教育関係の諸課題について
 - 子ども達の学力向上について
 - 学校図書館における専任司書の配置について

☆お気軽に声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします
これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ました。1〜56号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日
10月29日(日)
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

6月定例議会 トピックス

新しい副市長に 嶋田寛氏

前任の内田龍雄氏の退任に伴い、空席となっていた副市長について、嶋田寛氏(前栃木県真岡土木事務所長)が新たに選任されました。
嶋田氏は56歳。東京大学工学部を卒業後、昭和58年に栃木県庁に入り、これまで技術管理課主幹、交通政策課長などを務めてきました。

『BCP(事業継続計画) 策定推進都市宣言』

真岡市は、市内事業者が災害時でも必要な業務を続けるためのBCP(事業継続計画)策定を支援するため『BCP策定推進都市宣言』を行うこととなりました。
この宣言は全国でも初めての取り組み。今後、周知用のポスター・チラシを配布するほか、市内事業者を対象としたセミナーなどを開催する予定です。

『全国いちごサミット』 開催に向けて

石坂市長の選挙公約である「全国いちごサミット」の開催準備として、134万円の補正予算が成立しました。今後、市やJAの職員が行うとともに、市、県、生産者、農業団体、商工団体や観光協会などの各種団体で組織する準備委員会を設置する予定。
また、農政課内に『いちごサミット推進係』を新設。専任の係長が1名配置されました。



市役所に掲げられた都市宣言の懸垂幕



中村かずびと議会レポート

6月定例議会 質疑・一般質問

【答弁者】

石坂 真一	市長
田上 富男	教育長
野澤 雅孝	市民生活部長
成毛 純一	産業環境部長

質問:中村かずびと

質疑(市が提出した議案に対する質問)

BCP(事業継続計画)策定推進支援事業費について

質問 この度、真岡市では**災害時でも必要な業務**を続けられるよう、職員の参集体制などを事前に決めるBCP(事業継続計画)を策定した。また、市内事業者などの策定も積極的に支援するため、**全国初**となる『**BCP策定推進都市宣言**』を行うこととなった。今回の**補正予算**では『BCP策定推進支援事業費』として**118万円**が計上されているが、具体的な**支出の内訳**はどのようなものか。

答弁 まず、**講師謝金**を2回分、60万円計上している。さらに、**懸垂幕**の作成費など13万円、**周知用ポスター**(1,000枚)と**チラシ**(10,000枚)の作成費として45万円を計上し、BCP策定支援キャンペーンを展開していく。

1.今後の市政運営 について

質問 真岡市では『三位一体改革』がスタートした平成16年度から、**市債の発行額を元金償還額以内に抑える方針**を打ち出し、市債残高の削減に取り組んできた。その結果、最も市債が多かった**平成12年度末**と比べて、**27年度末の市債残高は157億3,366万8千円削減**されている。**市長の公約**を見ると、『**中心市街地リノベーション事業**』をはじめとして、**大きな財源が必要な事業が目につく**が、今後の財政運営についてどのような考え方で臨むのか。

答弁 公約に掲げている『**まちなか子育て支援施設**』、『**中心市街地リノベーション事業**』、『**まちのステーション整備**』のほか、『**第1学校給食センター整備**』や『**新広域斎場建設**』など**大型プロジェクトの実施が見込まれる**状況にある。そのため、中長期的な財政需要を的確に捉え、持続可能な財政運営を基本に、**地方交付税の措置制度がある有利な起債や、PFIなどの民間資金も活用**し、財政負担の軽減を図りながら事業に取り組んでいく。

質問 現在、**市長の定例記者会見**は年4回行われている。しかし、県内の**14市の中で11市の市長が月1回**のペースで行っており、**3ヶ月に1度**というのは**真岡市だけ**である。市長の定例記者会見は、報道機関との連携を密にすることや、地域情報のトップセールスという性格も持ち合わせている。**もっと頻繁に行うべき**ではないか。

答弁 これまで県議会議員として、知事自らがトップセールスを行ってきた状況を間近で見てきた。トップ自らが情報発信することは、真岡市のPRにとって大変効果的である。今後は、原則として**毎月1回、定例記者会見**を行い、市の施策や新規事業の周知、イベントのPRなど**積極的な情報発信に努めたい**。

質問 これまで真岡市が進めてきた**シティプロモーション**の取り組みについて、**どのよう**に評価をしているのか。また、今後**見直すべき部分**については何か考えているのか。昨年度から、企画課内に総合戦略推進係を立ち上げ、シティプロモーションを担当している。しかし、他市の状況などと比較すると、行政内部の**組織機構のあり方**については、見直すべき部分の1つではないかと感じるが。

答弁 昨年度は、シティプロモーション冊子の作成や動画配信、専用WEBサイトの立ち上げ、移住相談会への参加など、**市の認知度向上とUIJターンの取り組み**を新たに開始したところであり、**今後も積極的に**取り組んでいく必要がある。特に今年度は、ベリテンライブでのPR活動や、『**子育て・仕事**』に特化した情報誌の発行を進めていく。**組織機構**については、当面のところは**現行の組織を維持**しながら、新たに民間の事業者との連携も視野に入れていきたい。

2.雇用の創出 について

質問 今年度、真岡市では『**新産業団地推進事業**』として、適地調査と基本構想の策定を予定している。ただし、この事業の目的は、新産業団地を**造成すべきか否かも含めて多角的に検討**したいとのことだった。この度の**市長の公約**には『**産業団地の新規造成**による企業誘致の推進』ということが掲げられている。これまでは十分な検討をするとしていた『**新産業団地推進事業**』だが、その**方針に変更点はあるのか**。

答弁 真岡市では**昨年7月から**、関係部課長などによって**庁内検討委員会**を立ち上げ、その中で**新産業団地の適地調査**を行い、**基本構想**を策定すべきという検討結果が出された。今後、真岡市が雇用創出や定住促進を図り、安定した財政基盤の確保のために新産業団地をスピード感を持って整備することが必要と考え、市長選の公約に掲げたところである。今年度は専門業者に委託し、産業団地の適地調査を行い、**実現の可否を含めて検討**を行っていきたい。

質問 **市長の31項目に及ぶ公約**を見ると『**ローカルベンチャー企業創出支援**』、『**空き店舗を活用したチャレンジショップや起業家の誘致**』、『**女性創業支援スクールの開設**』と、**起業家支援**に関するものが**3つも掲げられている**のが1つの特徴となっている。しかし、真岡市の現状を見ると、**活動拠点が乏しい**ために**若い起業家が市外へ流出**するケースが増えている。そこで、今年度整備が予定されている『**チャレンジショップ**』の進捗状況はどのようになっているか。また『**インキュベーション施設**』などを増設する考えは。

答弁 『**チャレンジショップ**』の設置場所については、**荒町地内の空き店舗**と交渉をしているが、現時点では**合意に至っていない**。現在、新たな空き店舗も含めて検討しているところである。今後、条件が整い次第、契約や店舗の改装、入居者の選定などを行い、**今年度中の開設に向けて準備**を進めていく。『**インキュベーション施設**』は、現在、真岡商工会議所内に2部屋が開設されている。増設については、**現施設の利用状況や今後の応募状況を勘案**しながら検討していきたい。

質問 今年3月末のハローワーク真岡管内の有効求人倍率は、就業地別の値で1.37倍。意外に思えるほど、この地域に仕事はある状況となっている。

さらに業種別で見ると、

運輸・機械運転職	1.57倍	サービス職	1.66倍	専門技術職	2.09倍	建設職	3.58倍
----------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------

という状況である。しかし一方では、

販売・営業職	0.84倍	事務職	0.47倍	労務職	0.18倍
--------	-------	-----	-------	-----	-------

となっており、この地域では『**雇用のミスマッチ**』が**顕在化**していることが分かる。この課題を正確に把握しないと、仕事を探している**市民にも**、求人募集を出している**企業にも**、**大きなマイナス要因**になると考えるが。

答弁 現在、有効求人倍率が高水準にあるにもかかわらず、**失業が発生し、人手不足も解消されない**『**雇用のミスマッチ**』が発生している。真岡市としては、真岡市内で就職を希望している求職者を対象とした**合同面接会**、就職を控えた**高校生を対象としたセミナー**などを行ってきた。今後は、県と連携をさらに密にし、『**とちぎジョブモール**』や『**とちまる就活アプリ**』などの**活用促進**を図りながら、『**雇用のミスマッチ**』の解消につなげていきたい。

3.子育て環境の整備 について

質問 市長の公約の1つに『**病児・病後児保育**』の充実ということが掲げられている。これまで、真岡市では**病児保育**は実施されていなかったが、今年度から済生会宇都宮病院内の病児保育施設を利用できるようになった。ただし、**子育て世代**に聞くと『**こうした施設は真岡市内に欲しい**』という声寄せられる。今後どのように病児保育の施設整備を進めていくのか。また、現在すでに実施されている**病後児保育の充実化**についての考え方は。

答弁 **病児保育**については、今年度から**済生会宇都宮病院**内の病児保育施設を利用できるようになった。しかし、より利用しやすい**市内での病児保育**の導入に向けて、**調査・研究を進めさせている**ところである。また、**病後児保育**については、現在のところ**定員4名で、午前8時から午後6時まで**開設している。利用者からサービス拡充の要望は特にないが、今後もより利用しやすい事業となるよう推進していきたい。

4. 教育関係の諸課題について



質問 市長の公約の中に『**全国学力・学習状況調査**を県内トップレベルへ』という項目がある。しかし、同調査において**栃木県は全科目が全国平均を下回り**、特に昨年、小学6年生の算数は全国最下位だった。また、**真岡市も『全国学力・学習状況調査』や『とちぎっ子学習状況調査』などの結果を見ると、県平均よりも下回っている科目が目立つ**状況にある。このように、県・市ともに成績が低迷している原因をどのように分析しているのか。

答弁 過去3年間の『**全国学力・学習状況調査**』の結果を見ると、**中学校は全国、栃木県と比べてほぼ同程度**である。しかし、**小学校は全科目で全国、栃木県を下回っている**。**真岡市**では、栃木県が現在展開している『とちぎっ子学力アッププロジェクト』の趣旨を踏まえ、『全国学力・学習状況調査』や『とちぎっ子学習状況調査』の結果などを活用して、**学力向上改善プランを作成し、子ども達の『確かな学力』の向上に取り組んでいる**。

質問 現在、真岡市では『**学校図書館専任司書配置事業**』が展開され、5名の司書が市内の全小学校を巡回しながら、**子ども達の読書指導**にあっている。この取り組みは『**まち・ひと・しごと創生総合戦略**』の中にも盛り込まれており、**平成30年度**までには**中学校にも配置される**ことが目標として掲げられている。そもそも、市内小学校18校を、司書5名で対応している現状も改善が必要であり、**司書の人材確保・育成は急務**と思われるが。

答弁 小学校に配置している司書については、各種研修の受講などにより専門知識の習得を図るとともに、子ども達の学習課題に対する関連図書の紹介や、図書の活用方法を教えたりなど、**確かな学力向上につなげられるよう努めている**ところである。一方、**中学校に配置する司書**については、小学校と同様に**中学校9校への巡回配置を想定**しており、その確保に関しては、**ハローワークや市のホームページ、広報紙などを活用**して優秀な人材を確保したい。

再質問



財政運営に対する考え方について

質問 原則として、これまで**市債の発行額**については、**元金償還額以内**に抑える方針を貫いてきた。今後も**その方針は変わらないのか**。それとも、何か新しい方針に基づいて財政を運営していくのか。

答弁 新庁舎建設をはじめ、様々な**大型プロジェクト**が控えている中においては、**税財政についても考えていかなければならないが、やはり『選択と集中』**ということ**取り組んでいきたい**と思っている。また、先ほども答弁したように、**PFIや特例債などもできる限り活用**していきたい。

要望 大型プロジェクトを控えている中では、財政運営の面で**市民が不安に感じる部分も**あると思う。ぜひとも、**健全財政には心掛けていただきたい**。

シティプロモーションのあり方について

質問 **シティプロモーションの担当部署**については、当面現行のままという答弁であった。しかし、企画課内に設けられた**総合戦略推進係**については、**2名の職員**で運営している状況にある。**あまりにも少ない**ように感じるが。

答弁 シティプロモーションは、真岡市にとって極めて大事な事業だと考えている。こうした事業については、**全庁あげて取り組む**。さらに、行政だけではなく**この地に住む若い方々の知恵も**お借りする必要があると思う。そうした取り組みをした上で、行政機構については研究していきたい。

新産業団地の整備について

質問 新産業団地の整備については、1度慎重な検討を行うとのことだった。確かに、真岡市で今、産業団地の整備を進めるには、**北関東自動車道などの道路網が充実**しているというプラスの部分がある。その一方で、**生産拠点を海外に移す企業が多い**中で、地方都市が産業団地を進めていく意義については疑問の声も多い。産業団地を整備するか否かについては、**何を判断基準**とするのか。

答弁 今後、**専門家に様々な観点から調査**していただくことになる。その**調査結果を踏まえて**総合的に判断をし、可否を決定していく。

チャレンジショップについて

質問 チャレンジショップとして活用する空き店舗については、候補地を1つに絞っていたものを、複数に広げたとのことだった。ただし、**チャレンジショップの広さや募集する起業家の数**については、現時点でも見通しが立つのではないかと思うが。

答弁 **荒町地内の空き店舗**ということで、前提条件はそこに絞って交渉を進めている。**募集する起業家の数**などについては、店舗所有者との今後の交渉などにより若干の**不確定要素**がある。

病児保育について

質問 病児保育については、真岡市内での整備に向けて、すでに調査を始めているとのことだった。その調査が終わった段階で、市内の**医療機関や保育施設**などに、委託先として**協力を呼びかけるようなことは**考えているのか。また、病児保育を行いたいという事業所が現れた場合、**市としてはどのような支援を**考えているのか。

答弁 病児保育については、一刻も早く私も真岡市内に設置することが必要だと考えている。そのような中で、**民間に委託**する方が良いのか、**市単独**でやる方が良いのか。そうした課題も含めて**早急に調査・研究**をさせていただきたい。

要望 議員になったばかりの頃、**病児保育を行っている医療機関**を視察したことがある。その際、**医師の善意で成り立っている**という印象を持った。そういうことだと、**事業を継続するのは難しい**と思う。ぜひ、市としてしっかりと受け皿づくりをお考えいただきたい。

子ども達の学力向上について

質問 この件については、**市長にも見解を**聞きたい。これまで**22年間県議**として活動され、栃木県内はもとより**他県の取り組み**なども見てこられたかと思う。**それらと比較検討**し、栃木県や真岡市の状況をどのように感じているか。

答弁 **栃木県、そして真岡市でも残念な結果**が出ているのは事実だが、**点数自体はそれほど大きく開いていない**だろうと思っている。これまで、様々な教育の先進地へ視察に出向いた。例えば、学力の高い秋田県、山形県、福井県などは、三世同居率が全国で高い地域と言われているが、そのことが要因なのか分析するのは難しいと思う。まずは、今年から行っている**市独自の学力テストの結果**を踏まえ、**何が問題点なのか分析**していきたい。

要望 真岡市内には今後廃校になる学校もあるが、それらも含めて、**明治時代の初期に創設された学校**が多い。この地域は、**子ども達の教育**というものに**力を注いできた土地柄**なのだと思う。そうした先人達の想いも活かしながら、教育の充実という課題に取り組んでいただければと思う。

学校図書館への専任司書の配置について

質問 **中学校の学校図書館に専任司書**を配置するのは、**平成30年度**の予定である。ただしこの年は、小学校の統廃合も行われ、学校数が現在の27校から24校に減少する。そうした中で、専任司書の**配置をどのような形で**行おうとしているのか確認したい。

答弁 現在、**小学校18校**に対して5名の司書が巡回指導している。平成30年度については4校減少するので、**司書1人当たり3校**くらいを担当することになる。**中学校は9校**ある。9校で何人が適切なのか明確な答えはないが、今後十分に検討していく。

質問 来年度から中学校にも司書を配置する計画であるにも関わらず、これから人材の育成・確保をしていくというのは、少しのんびりしているような気がする。**何人ぐらいの司書**を配置にするかということについて、**いつ頃までに決定**するのか。

答弁 **平成30年度の配置**に十分間に合う時期に**募集**を行い、適切な人員を集めて行きたい。



私の政治活動費

この1年間（平成28年5月1日～平成29年4月30日）にかかった私の政治活動費について皆様にご報告いたします。

項目	金額	備考
印刷・広告費	1,065,312円	『中村かずひこ通信』
ホームページ更新費	140,000円	
書籍・資料購入費	66,759円	D-file等
研修参加費	36,000円	清溪セミナー参加費等
交通費	135,190円	個人で参加した研修の交通費
食糧費	0円	
通信費	1,470円	郵送費
文具費	2,667円	封筒、ノート、ファイル
家屋費	300,000円	事務所家賃
光熱水費	52,205円	水道料、電気料
その他	4,324円	

総額 **1,803,927円**



皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

※詳細に知っていただくため、個人視察時の交通費なども掲載いたしました。

※なお、過去の政治活動費については「中村かずひこ通信」の1、5、9、12、17、21、25、29、33、37、41、45、49の各号をご参照下さい。

コラム むあつぷ

石坂真一新市長が、市長選で掲げた5分野31項目に及ぶ公約の1つに「病児・病後児保育の充実」がある。

このうち「病児保育」は、未就学児が病気療養中にあり、保育園や幼稚園に通園できない場合に、自治体が委託する医療機関などで預かる制度のことである。真岡市では、病気の回復期にある子ども達を対象とした「病後児保育」が、平成19年度から実施されてきたが、「病児保育」についてはこれまで行われてこなかった。

先日、自宅で古いアルバムを整理していたら、懐かしい写真が出てきた。撮影した時期は平成16年9月。私が市議会議員になって2年目の時である。場所は、宇都宮市内にある「福田こどもクリニック」という小児科医院だった。

同院は、平成14年から「病児保育」に取り組んでいる。言わば、栃木県内でも「老舗」的な存在である。当時私は、その状況を個人的に視察したのだった。



『病児保育』のあるべき姿に向けて

さて、真岡市内における「病児保育」であるが、今年度から済生会宇都宮病院内にある病児保育施設を、真岡市民も利用できるようになった。これはこれで“一歩前進”と言えるかも知れない。しかし、子育て世代から話を聞くと、やはり地元の真岡市にこういった施設は欲しいという声が寄せられる。

こうした取り組みについて述べると、いくら忙しいとは言え、病気の子どもを誰かに預けたいと考えるほど今の親は冷たくなったのか、といった批判が必ずつきまとう。だが、子どもが急に熱を出した時などに、休暇を従業員に与えることが困難な事業所も、決して少なくないと思われる。

ちなみに、労働政策研究・研修機構の調査によれば、子育て中の母親が求める支援策として、病児保育や病後児保育の充実、は、保育所の受け入れ拡充以上にニーズが高いという結果が出ている。今後、少子化対策や子育て支援策を一層進めていくのであれば、「病児保育」という施策は、限りなく必須アイテムに近い。

6月定例議会で行われた一般質問に対する答弁で、市長は「一刻も早く真岡市内に設置することが必要」という認識を示した上で、調査・研究をすでに進めていることを明らかにした。就任早々、スピード感を持って公約の実現に向けて取り組んでいることは高く評価したい。

その一方で、より慎重な議論が必要な部分もあるように感じる。前述の通り、13年前に「病児保育」の状況について視察をしたことがあった。その際、運営に係る多くの部分を、医師の善意に委ねているという印象が否めなかった。

運営方法などについては現在検討中とのことだったが、利用者となる子育て世代の市民や医療機関、保育施設などの幅広い声を聴きながら、真岡市にとって「病児保育」の理想的な運営スタイルを確立していただきたいと切に要望する次第である。

中村かずひこ活動日誌

- 4月
- 2日 熊倉4区女性防犯防火クラブ総会
 - 5日 真岡自然観察会役員会
 - 6日 交通安全指導(高間木の交差点) 佐野市議会議員選挙の応援
 - 8日 真岡地区遺族会総会
 - 9日 守鐵社祭・桜祭り
 - 10日 あいさつボランティア 真岡中学校入学式 伊夜日子会会計監査
 - 11日 大内中央小学校入学式
 - 12日 議会活性化等検討委員会
 - 13日 真岡地区戦没者慰霊祭
 - 15日 伊夜日子会総会
 - 16日 真岡市長選挙告示
 - 17日 あいさつボランティア 空き家対策勉強会
 - 18日 『ひばりの会』総会
 - 19日 真岡新聞音訳作業(『ひばりの会』の活動として)
 - 23日 熊倉神宮桜まつり
 - 24日 あいさつボランティア
 - 24~25日 関東若手市議会議員の会役員会・研修会(神奈川県横浜市・藤沢市)
 - 28日 栃木県合同慰霊祭(於:栃木県護国神社)

- 5月
- 1日 あいさつボランティア
 - 2日 『ひばりの会』定例会
 - 8日 あいさつボランティア 関東若手市議会議員の会栃木ブロック役員会(於:宇都宮市)
 - 9日 『八月の会』総会
 - 12日 井田隆一市長退任式
 - 15日 あいさつボランティア 石坂真一市長登任式 ふるさと納税に関する勉強会
 - 19日 議会運営委員会 会派間協議
 - 20日 真岡自然観察会 大谷広報編集会議
 - 22日 臨時議会
 - 23日 全国若手市議会議員の会研修会(於:長野県佐久市) ローカルmanifest推進地方議員連盟研修会(於:早稲田大学)
 - 26日 ハローワーク真岡にてヒアリング
 - 27日 総合運動公園弓道場・クラブハウス完成記念式典
 - 29日 あいさつボランティア 議員協議会
 - 30日 議会活性化等検討委員会
 - 30日 質疑・一般質問の通告書を提出
 - 31日 真岡市遺族会連合会総会

- 6月
- 1日 質疑・一般質問調整会議 ※その後、市の担当課と接見
 - 2日 西真岡第二保育園にてヒアリング はがの真岡準倫理法人会イブニングセミナー
 - 5日 あいさつボランティア 6月定例議会開会
 - 8日 東京・あきる野市議会議員選挙の応援
 - 10日 真岡西中学校西輝ヶ丘スポーツフェスティバル 病児保育についてヒアリング
 - 12日 質疑・一般質問1日目 ※この日、最終質問者として登壇
 - 13日 質疑・一般質問2日目
 - 14日 新庁舎における議会システム説明会
 - 15日 産業建設常任委員会
 - 16日 真岡自然観察会会計監査
 - 18日 明治大学校友会栃木県支部総会(於:宇都宮市)
 - 19日 あいさつボランティア
 - 20日 6月定例議会閉会 議会活性化等検討委員会
 - 22日 関東若手市議会議員の会栃木ブロック総会・研修会(於:宇都宮市)
 - 26日 あいさつボランティア 地域生活支援拠点に関する勉強会
 - 27日 『八月の会』打ち合わせ
 - 28日 在宅医療・介護推進事業講演会
 - 29日 4期・5期議員打ち合わせ(議会活性化等について)
 - 30日 市民会館運営審議会